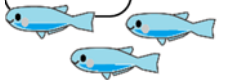


市内活動グループ訪問記

「釣堀おごむと」の野口徹也さん
親しまれている野口徹也さん



8月27日(木)午前南区相模台の自宅へ訪問させていただいた。コロナ禍のこの時期も快く受け入れていただいたことに感謝です。セキュリティのついたマンションなので前にお家への行き方を聞いてはいたが、奥様が約束の時間を見計らって1階の玄関まで迎えに来てくださった。優しい心遣いに嬉しくなった。お家にお邪魔するご主人の徹也さんが待っていてくださった。思っていた通りとても優しいお顔。さっそく椅子テーブルにてお話をうかがった。お年は86歳、奥様は81歳だとか。若々しくて素敵なお夫婦です。

釣堀おごむとの始まりは69歳で定年を迎えてから。「子供たちが何か出来ることはないか」と考え「絵が好き。子供が好き」からのボランティア活動になったそうだ。遊び方は「釣ること」ただそれだけなのだが、やってみると誰もが夢中になれたそうだ。子供たちの集まりの日は順番待ちの行列ができてしまうもたびだちがある。15年間ですべて300回と聞いてびっくりだが、それだけ300回は超えているのだ。



熱心にお話くださった野口さん

今年で17年目になるそうですが、昨年暮れ以降は活動を休止している。コロナの影響に加えてご自身も腰の

持病で体調を崩されたそうだ。それでも自分で暇を見つけては魚の製作に力を注いでいる。魚の製作も始めた頃は厚紙の画面に描いた絵を形に合わせて切り取り磁石を付けただけのものから、改良を重ねこれにハチ加工を加えたものになった。これにより



釣堀に使うカラフルな魚たち

魚の色が濃い、重厚感もあり、形も崩れないで長く使えるようになったそうだ。釣堀の開催の様子も自分で写真に撮り、記録したものがファイルアルバム16冊にも及んでいる。

開催場所は麻溝公園。開催日はお天気の良い日曜と祝日の8時頃から5時頃まで、ほぼ1日中。晴れの日限定という事です。自転車に道具を積んで奥様の手作り弁当持参で頑張ってきたそうだ。奥様と2人3脚でやって来られた様子がハッキリうかがえた。近頃は学校の先生をなさっているお孫さんも手伝いに来てもらっているようになったとか、とても心強くなるというお話も。

昨年10月開催の予定だったのはほぼかぶれぬくらいに初めて参加する予定が、台風の影響を受けて直前で中止になってしまっただけでも残念でした。しっかり運搬の手筈も整っていたのに。その後12月までは今まで通りに麻溝公園の日曜、祝日に活動なさっていた。ブルーシートをひいてロ元にクリップのついた魚をシートにばら撒く。釣りの先にはマグネットがついていて、年齢に応じて大小の長さの釣竿を使って釣る。しかし今までは通の楽しさ

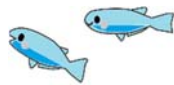
な子供たちの姿を目にするのができなくなっていました。今は自宅で体調の良い時に魚の製作などをやっています。そんな中、今月は近くの保育園で「釣堀」体験に招かれていて又々に子供たちの笑顔が見られるのを楽しみにしています。

今後はどのように活動できますかとお聞きしたら、「道具の貸し出しは難しいです。ただ取りに来てほしい。教えには行きませんが。やはり丁寧に指導いたします」というお話でした。

そして最後にこのボランティア活動を引き継いでくれる人を探しています。絵を描くことが好きで子供が好きで、時間を惜しまず活動できる、そんな方は是非ご連絡ください。お待ちしております。(植野)



子供たちのおみやげに使う3種類のピオンタは牛乳パックで出来ている



*野口徹也さん
〒252-0321
相模原市南区相模台
4-8-21-402
TEL/FAX
042-747-9622

クイズの答え!



- ①は ②の65%。私たちの体重のなんと65%は水。生まれた時の赤ちゃんは約90%の水。
- ②は ①のジュース(300g)7本分。約2.5ℓ。
- ③は ④のお風呂の浴槽1杯分くらい。私たちは1日1人当たり200〜250ℓの水を使っています。これはお風呂の浴槽1杯分の水になります。
- ④は ①の3.3杯分。なんと約1000ℓの水が必要なんです。2000ℓのお風呂の水を3杯分にするんです。